

くらしの家庭

防災意識高いけど実践せず

地震などの災害から身を守るた

め、実践している人は少ないこと

が、積水ハウス総合住宅研究所(京

都)の調べで分かった。調査は今

年7月、インターネットで行われ、

全国の20～60代の男女1205人

から回答を得た。

「住まいの耐震性能の確保」が55%

「地震から自分や家族を守るた

めに必要だと思うこと」を聞いた

ところ、最も多かったのが「非常

用食料、飲料水の備蓄」で62%。

「住まいの耐震性能の確保」が55

%、「家具や家電の固定」が51%

と続いた。これに対し、実際に行

っている割合は、備蓄が36%、耐

震性能の確保が20%、家具や家電

の固定が25%に過ぎなかった。

災害時には、自ら守る「自助」

とともに、個人や地域で助け合う

「共助」の重要性も指摘されてい

る。しかし、「日常の顔が見える

全国ネット調査

関係づくり」「地域の防災組織の整備」「地域の防災訓練の実施、参加」といった共助の備えが必要だと思ふ割合は、2割に達せず、実践しているのは5%前後にとどまった。

同研究所は「防災意識は高くても実践に至らない人が多い。過去の災害で重要性が認識された共助の備えもできていない」と分析。そのうえで、「備蓄にもなる缶詰をふだんの食事に取り入れたり、近隣住民とのあいさつで関係を築いたりするなど、日常生活に防災を組み込むことが大切」と指摘する。